



五下

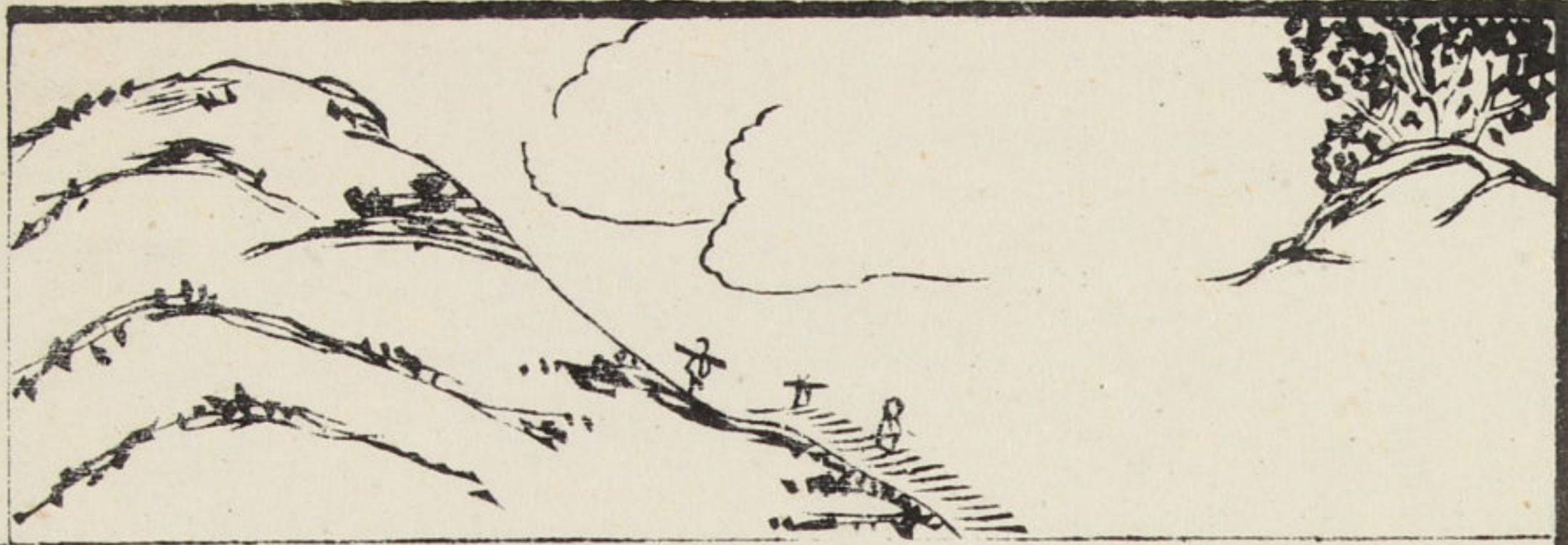
繪八
發句

古今名吟集

月宿庵客光集
秋卷之部

下





古今集

諸入古今名吟集卷之下

月窟庵

白雲編輯



秋之部

五月 五月やふりも夜ふらふは 翁

五月や何れをよきき山壁の奥 柳壽

五月や松ふきく時きりまき 墨遊

五月や到りい布き娘の子 其角

五秋 秋をよき昔ふらふは乃者 若海

秋とよき山壁動きそ秋そき 思愛

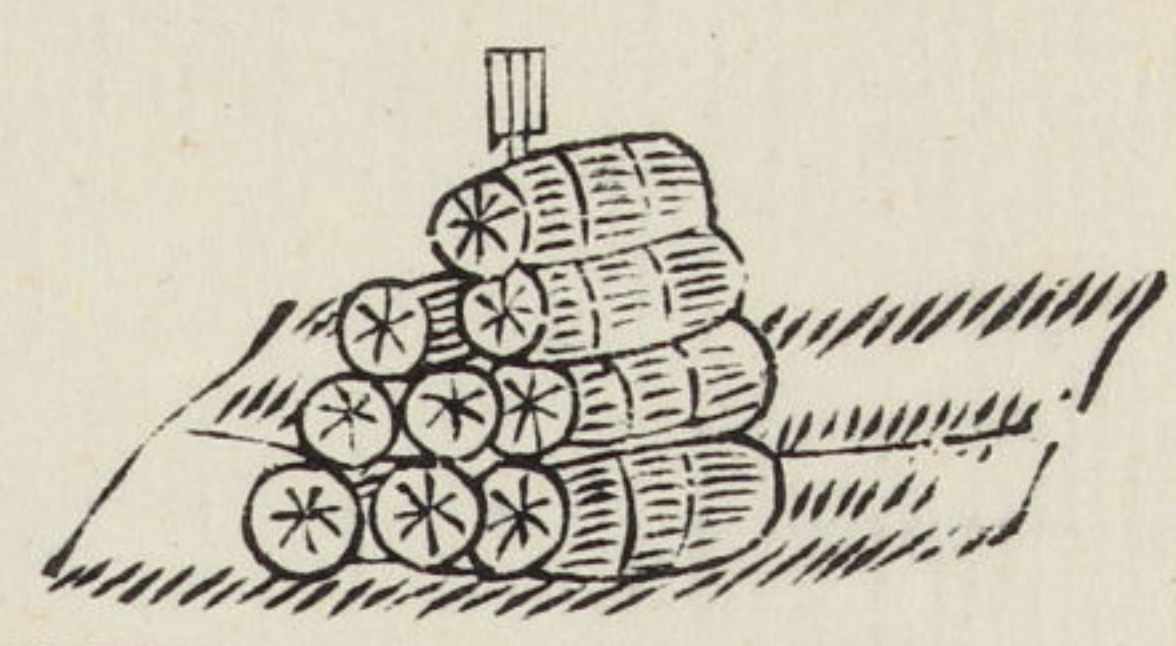
秋のつらぬ昔から秋のまきなり 一具

秋まき屋口斗りや風の物く 雀橋

秋まき秋ふおとろく夕う 風泊

秋

〇一



送け 瑞雪の橋もむよ生かたま
送け 送けや遠けりの袴あー
移りや大かさし川の中
風船とせらひくくわくわく
送けや心なま子の楚惜と
送けやあまき人過り
送けややうありけお燃し
橋たや女のさた柔のあひさ
せうたは只け人成とめたり
君あまやせうたはの満もまほし
物罕もいらがう家のつよふ
橋たやふ断も休む所の 派
北 聖

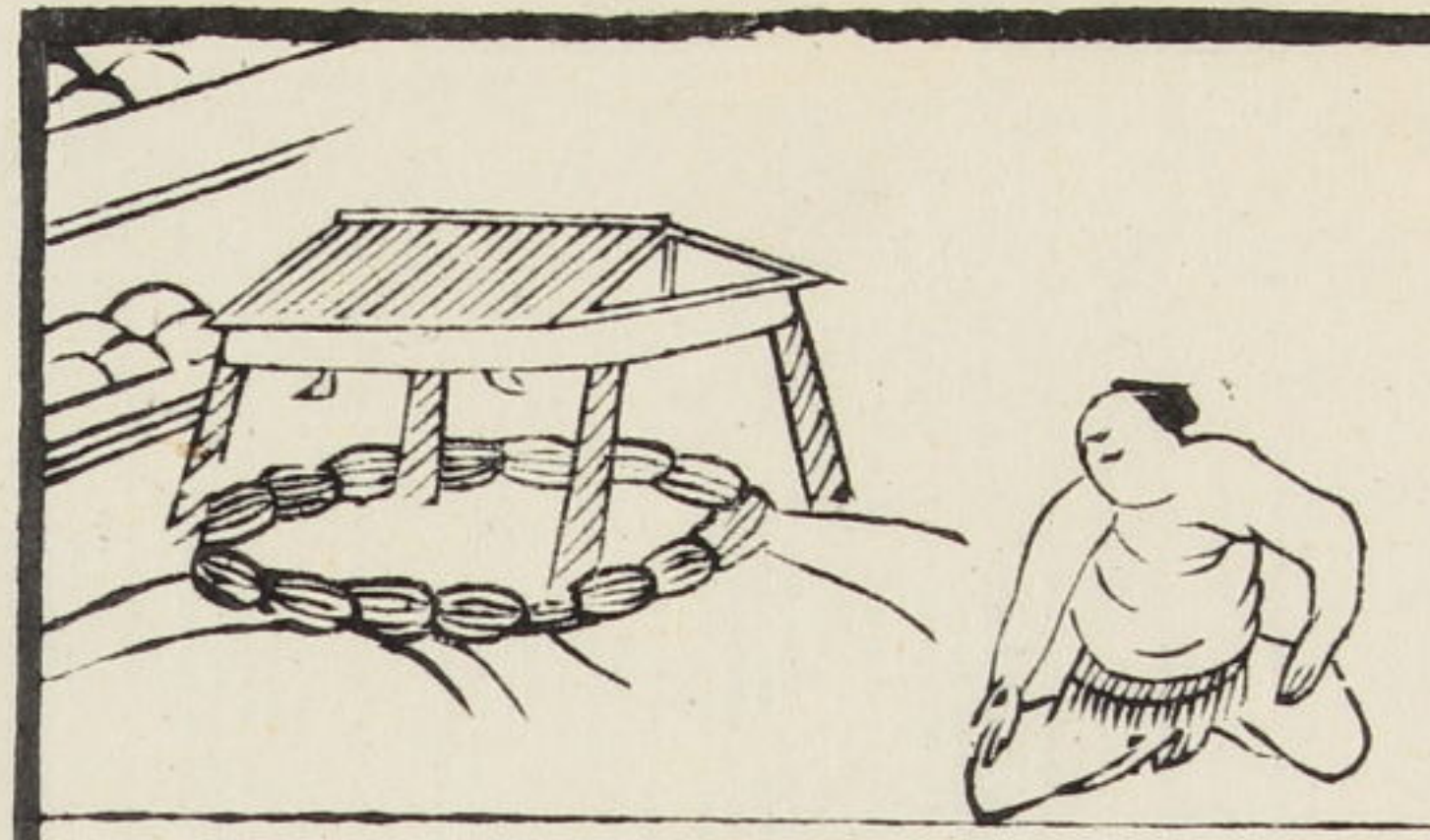
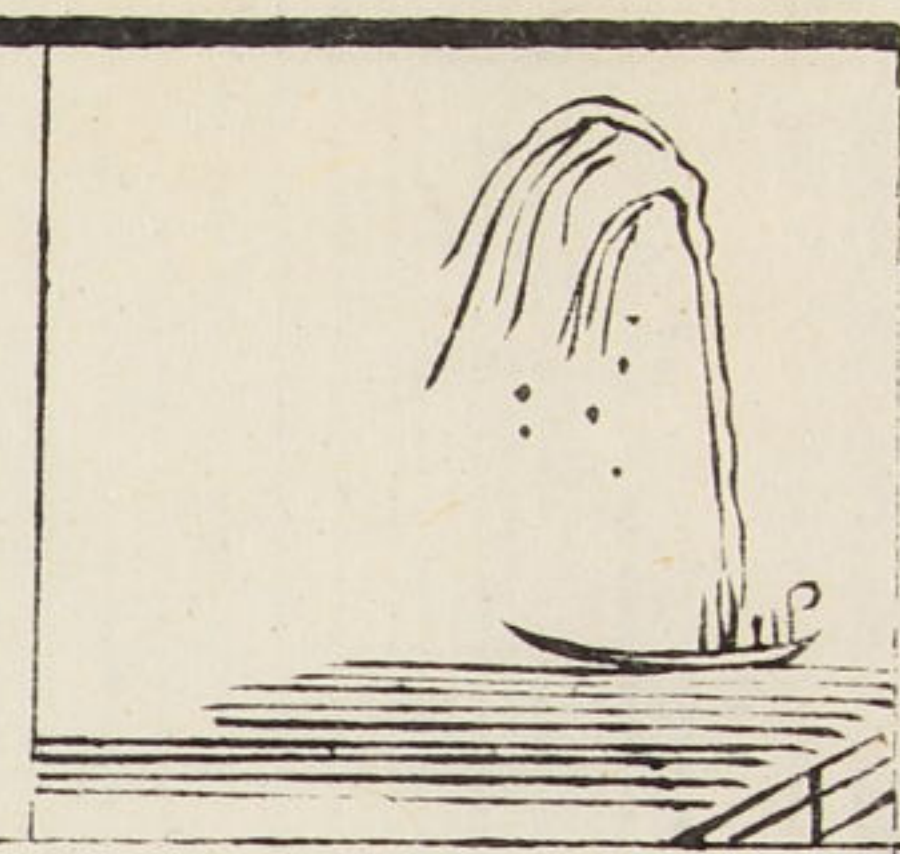
橋 瑞雪の橋もむよ生かたま
送け 送けや遠けりの袴あー
移りや大かさし川の中
風船とせらひくくわくわく
送けや心なま子の楚惜と
送けやあまき人過り
送けややうありけお燃し
橋たや女のさた柔のあひさ
せうたは只け人成とめたり
君あまやせうたはの満もまほし
物罕もいらがう家のつよふ
橋たやふ断も休む所の 派
北 聖

白 送け 瑞雪の橋もむよ生かたま
送け 送けや遠けりの袴あー
移りや大かさし川の中
風船とせらひくくわくわく
送けや心なま子の楚惜と
送けやあまき人過り
送けややうありけお燃し
橋たや女のさた柔のあひさ
せうたは只け人成とめたり
君あまやせうたはの満もまほし
物罕もいらがう家のつよふ
橋たやふ断も休む所の 派
北 聖

踏 一雪のり踏人おききおとりの
踊り多や舞のあそび成りけり
白 自じあそび踊の中から 踊り
踊りあやあ娘のまひ 踊り
つきの橋からあそび 踊り
回しあそびあそびあそび 踊り
一編うらまひ 踊りの舞ひ 舞
舞の月夜あそびあそび 舞
舞の月のあそびあそび 舞
あり果て踊あそびあそび 舞
川つるあそびあそびあそび 舞
育人の舞あそびあそび 舞
あそびあそびあそびあそび 舞

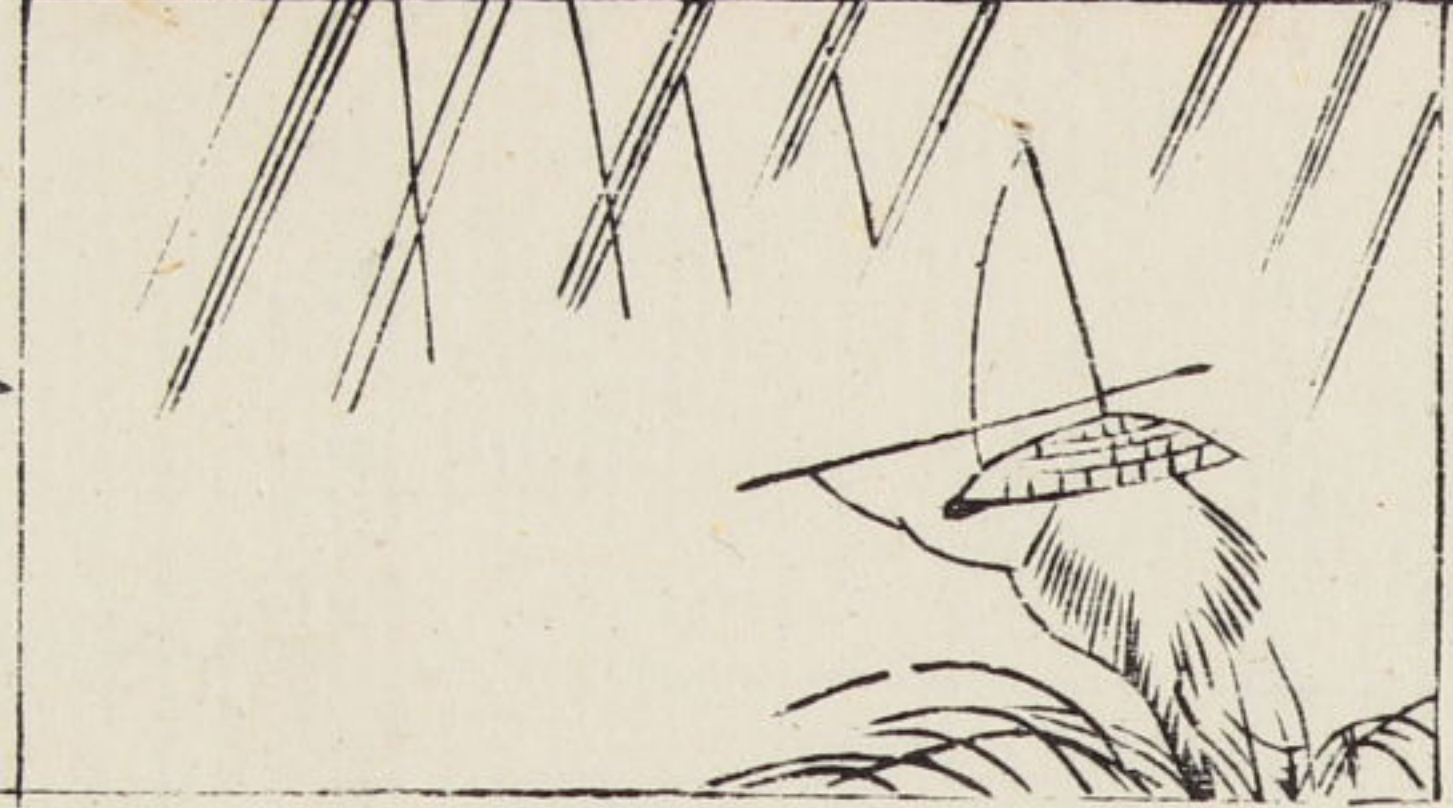


白 送け 瑞雪の橋もむよ生かたま
送け 送けや遠けりの袴あー
移りや大かさし川の中
風船とせらひくくわくわく
送けや心なま子の楚惜と
送けやあまき人過り
送けややうありけお燃し
橋たや女のさた柔のあひさ
せうたは只け人成とめたり
君あまやせうたはの満もまほし
物罕もいらがう家のつよふ
橋たやふ断も休む所の 派
北 聖



相模

あり方のつらきこときき
 油断しつて見るとは
 障さうな空を度うと
 川風や好煙そらき
 乃中の中ふきある
 都多住まうりり
 角力取
 六とつるおのり
 憎まぬその色果し
 裸身不麻の白いや
 枚らまう先月と
 夢利 生うあれ
 角力取 似障の
 里崎 徳村 橋茅 弁煙 法猿 去来 嵐空 詠升 凍露 許六 智珠 若為 花



二百

あり方のつらきこときき
 かつららの皆老中り
 角力取
 角力取 又押ま
 角力取 乗合
 角力取 柳か
 二百十
 阿
 七
 去
 大
 乙
 石
 山



移妻や岬久末々々ハ西正南
 以初りまのなまきまきくし晴夜式
 移妻や物不阿りくも移もせん
 い物ほまやほくくまきくも夜夜
 移妻や物壺やく物の白ひ
 移妻や物壺やく物尾と名き
 い物ほまや物中の物よりあり
 移妻や物壺や物壺の七重八重
 移妻や物壺のそよまきくも人ふ
 移の雨や物壺のそよまきくも
 い物ほまや物壺のそよまきくも
 い物ほまや物壺のそよまきくも



新風や白木の弓不法きり世
 苦の葉や物壺に物壺の風
 新風北吹きたりく人の魚
 釣針や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも
 新風や物壺のそよまきくも

秋

〇七



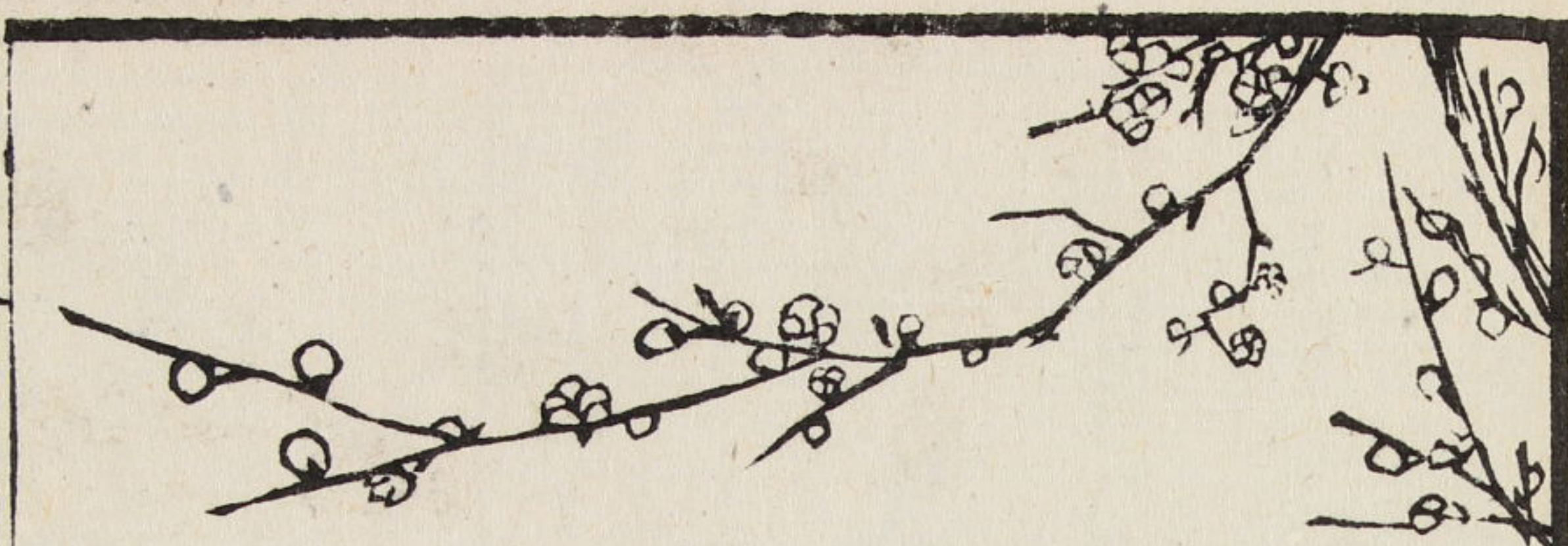
秋芳と葉の方ハも白文
 小雲
 芳晴と瑞るに里のけりり
 動
 雲小粒の吹くも深一
 坊々
 山彦の吹くも深一
 坊々
 西並子桐のほくも一
 葉分
 坊りの葉ハほくも一
 葉分
 相の葉もほくも一
 葉分
 相の葉もほくも一
 葉分
 風や日の向もほくも一
 葉分
 相の葉のほくも一
 葉分
 比はほくも一
 葉分
 夕のよまふ
 相の一
 葉分
 由
 葉

柳



葉のちりくゆり種き極ハ
 三の風
 けりりよきめのねり風の柳葉も
 三の月ハ一葉ハ
 柳
 あり瑞る柳たすきりちりハ
 あり
 廣くとほ小粒の吹くも一
 葉分
 雲牛り動片風や株
 ち葉
 純子ちり柳かりらちり葉分
 素外
 秋鳥やほくの花の
 一葉分
 ありさうわや柳のほくも一
 葉分
 秋鳥のありれぬほくも一
 葉分
 秋鳥の種もほくも一
 葉分
 阿さかほやほの引たる藤の
 葉分
 秋鳥の花もほくも一
 葉分
 本
 回

秋



花世
 面白ふりすふ節のみ世世り物
 安き見と思ひつゝる世世り
 まゝと長下道つれられ世世り
 あれあ世と響くそまき世世り
 親と伊直ふあゝまき世世り
 子かあ成附くもえなき世世り
 今引と油の跡あ世世り
 登の虫アももり世世り
 夢世や海芽もく世の世の世
 虫移れおさし世の世の世

名
 東
 下
 花
 大
 定
 末
 初
 道
 匠
 坊
 風
 多

花

〇十二

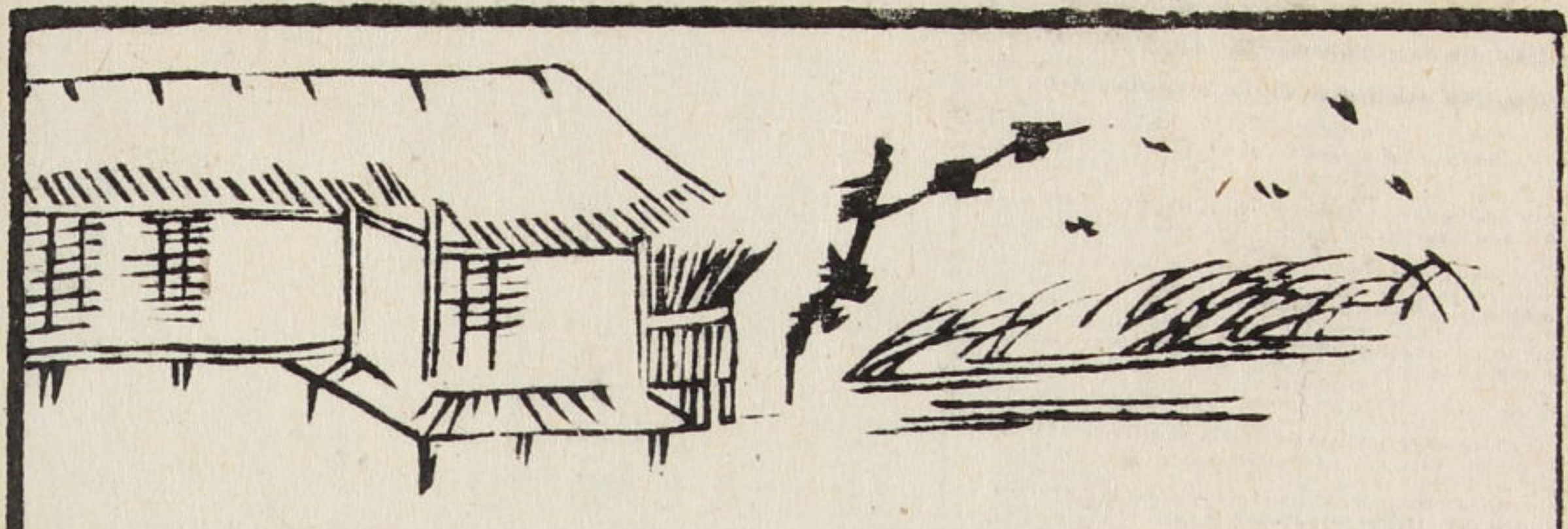


西瓜
 香琳く皺を成たぐ西瓜
 如於も糜斗し編ぬ西瓜
 切る浦くの心き世西瓜
 鬼灯や節本らまき世ひひり
 鬼灯や今やうたも節の上
 鬼灯は於時集りの節上候
 子傳りの白腹の色や名世
 麻莞まき節よひりぬ名世
 毒くてももつまき世の世世子
 鶏頭も極食せりり世世子

名
 世
 世
 子
 名
 世
 世
 子
 世
 世
 子
 世
 世
 子

薯
板

史
明



懐粹

虫の音や冥宿の森の中
 思ひの控所あり一軒の竹
 女中の意をたてては夜中
 盆通てく音清なり一虫の音
 白髪ぬく枕のちやまの
 昔の夢ふゆく啼く壁のきり
 布一ぬらたふも森入り
 芝草の寝おろす
 きりきりこころうら
 夢やうらふも
 兼後一ふく
 赤いふく
 焼灯のこころ

暮 山
 思 竹
 宵 中
 盆 通
 音 清
 一 虫
 白 髪
 枕 の
 昔 の
 夢 ふ
 布 一
 芝 草
 寝 お
 き り
 夢 や
 兼 後
 赤 い
 焼 灯



朔

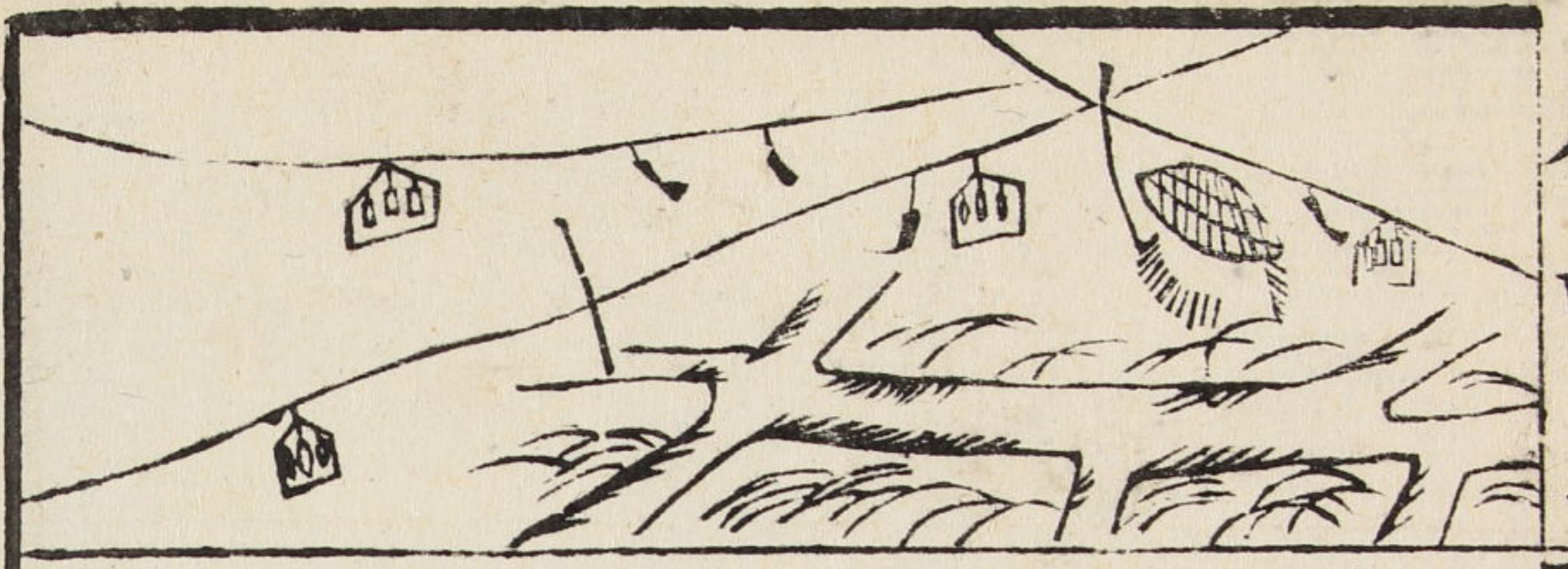
秋暁

秋懐

秋夜

朔の啼けりたる夕月
 秋暁のあけ
 秋懐のあけ
 秋夜のあけ
 秋のあけ

秋 暁
 秋 懐
 秋 夜
 秋



踏る枝やふさふさのあゝ雪をきく 長衣

あゝ雪をきく 破笠

気象をきく 破笠

はらふ家の道向ふまがく 破笠

泣細そがの道のまがれ 孫学

山里は煙たふらぬ 湯衣

ふのふの雪をきく 文耕

ふのふの雪をきく 法中

あゝ雪をきく 平角

あゝ雪をきく 土学

川をきく 可敷

あゝ雪をきく 傍如

あゝ雪をきく 豆珍

轉 巾の注きや 狐素

轉 巾の注きや 柳也

轉 巾の注きや 卷上

轉 巾の注きや 袴二

窺 靴の目つら 汗六

窺 靴の目つら 袴身

窺 靴の目つら 牙山

窺 靴の目つら 相一

煙 籠やふさふさ 危か

煙 籠やふさふさ 不武

糞 巾の注きや 杜若

糞 巾の注きや 柳流

みゆきの雪をきく 水





幅 幅 幅
みのかときめ侍發夜も子か危
幅 幅の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
幅 幅の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
幅 幅の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

鳥 鳥 鳥
みのかときめ侍發夜も子か危
鳥 鳥の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
鳥 鳥の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
鳥 鳥の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

蛙 蛙 蛙
みのかときめ侍發夜も子か危
蛙 蛙の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
蛙 蛙の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
蛙 蛙の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

川 川 川
みのかときめ侍發夜も子か危
川 川の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
川 川の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
川 川の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯



川 川 川
みのかときめ侍發夜も子か危
川 川の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
川 川の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
川 川の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

八月 八月 八月
みのかときめ侍發夜も子か危
八月の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
八月の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
八月の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

美月 美月 美月
みのかときめ侍發夜も子か危
美月の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
美月の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
美月の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

舟の甚 舟の甚 舟の甚
みのかときめ侍發夜も子か危
舟の甚の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
舟の甚の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
舟の甚の飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

ハ ハ ハ
みのかときめ侍發夜も子か危
ハの飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
ハの飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯
みのかときめ侍發夜も子か危
ハの飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

行



初月やゆふ雲の影きよき
初月やゆふ雲の影きよき

初月やゆふ雲の影きよき
初月やゆふ雲の影きよき

初月やゆふ雲の影きよき
初月やゆふ雲の影きよき

初月やゆふ雲の影きよき
初月やゆふ雲の影きよき

初月やゆふ雲の影きよき
初月やゆふ雲の影きよき

初月やゆふ雲の影きよき
初月やゆふ雲の影きよき

初月やゆふ雲の影きよき
初月やゆふ雲の影きよき

初月やゆふ雲の影きよき
初月やゆふ雲の影きよき

初月やゆふ雲の影きよき
初月やゆふ雲の影きよき

名月

名月や夜は静か
名月や夜は静か

名月や夜は静か
名月や夜は静か

名月や夜は静か
名月や夜は静か

名月や夜は静か
名月や夜は静か

名月や夜は静か
名月や夜は静か

名月や夜は静か
名月や夜は静か

名月や夜は静か
名月や夜は静か

名月や夜は静か
名月や夜は静か

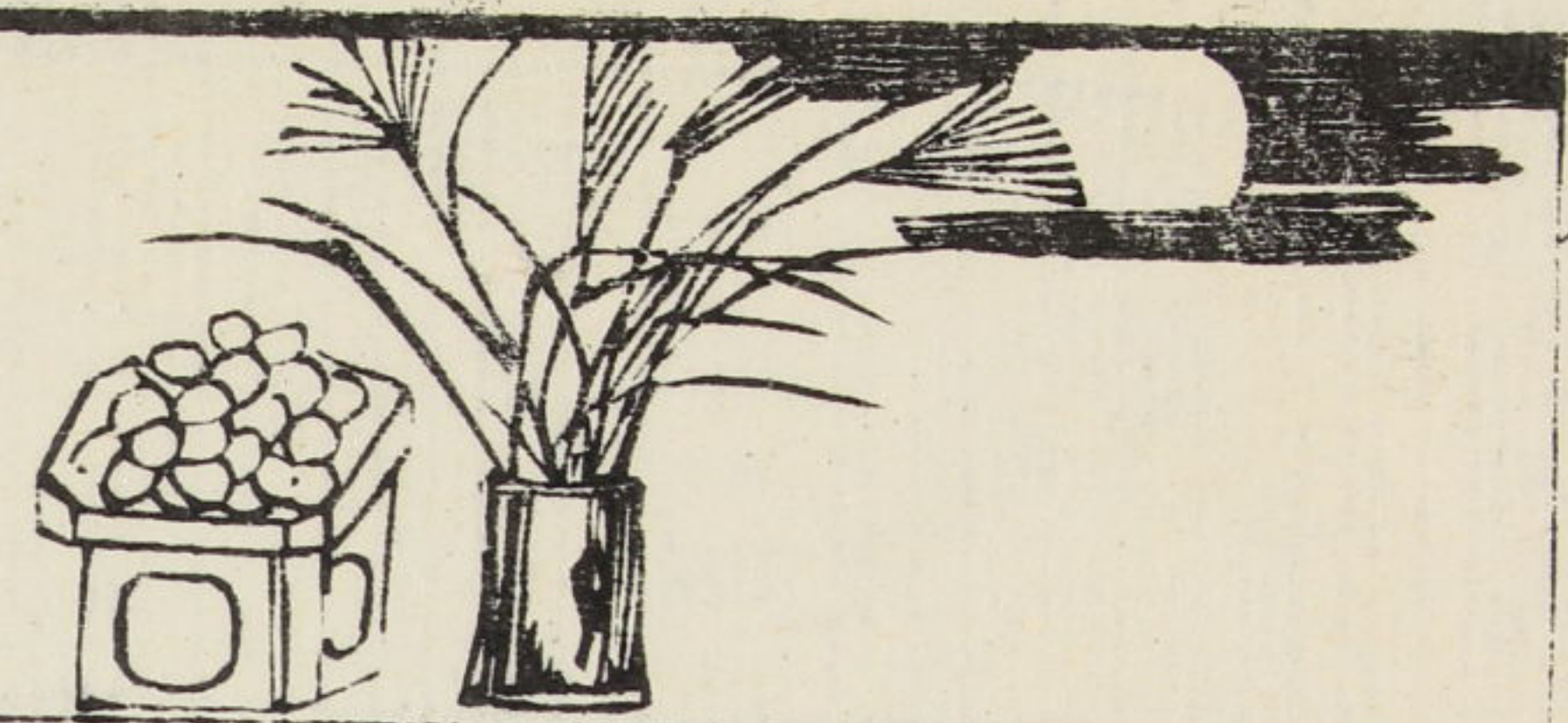
名月や夜は静か
名月や夜は静か

名月や夜は静か
名月や夜は静か

名月や夜は静か
名月や夜は静か



新集



その月

隈のまふ柱のまふまふまふの月 柱ま
 かまのまふまふの月 本
 隈のまふまふの月 龍三
 大空のまふまふの月 燈水
 見守れたまふまふの月 菅室
 妻のまふまふの月 去志
 家々のまふまふの月 世枝
 川原のまふまふの月 杉原
 庭のまふまふの月 辰死
 ちか付のまふまふの月 文彦
 手引のまふまふの月 文彦
 南のまふまふの月 城人
 降のまふまふの月 岩江

月見

月のあ

月



空一重のまふまふの月 九死
 通のまふまふの月 杉原
 深のまふまふの月 辰死
 名瑞のまふまふの月 去志
 分別のまふまふの月 密川
 西のまふまふの月 穢人
 らまふまふの月 雅燦
 深人のまふまふの月 涼葱
 照のまふまふの月 文叔
 高のまふまふの月 密家
 大空のまふまふの月 英丈
 深のまふまふの月 杉原
 茶中のまふまふの月 杉原

〇十七



夜堂
 夜の聲の初ふ森の初空の
 物音の傳ふ聲の初空の
 と母の聲の初ふ聲の初空の
 箱の聲の初ふ聲の初空の

年序
 江之
 万矣
 也氣
 一
 牛
 園
 出
 空
 風
 空
 名



秋の夕
 眼ふ見えぬ風さ秋の夕
 庵とと野山さ秋の夕
 秋の夕の初ふ聲の初空の
 何れか秋の夕の初空の
 秋の夕の初ふ聲の初空の
 立あつて海あや秋の夕
 物と下二人の初ふ聲の初空の
 おもひやう秋の夕の初空の
 物いそぬ人揚や秋の夕
 あらぬ人初ふ聲の初空の
 葉内とと秋の夕の初空の
 秋の夕の初ふ聲の初空の

徒
 於
 由
 空
 名
 小
 散
 量
 考
 乙
 由
 去
 枝
 何
 上

秋

和吟集



秀子 寄書の書かぬ形に 萬り 式 石武良

新成 鶏成や宿の暮る時 於 何 光

夕の暮る懐も 花 巴 新

伸さく下葉 新 夫

招際止 於 新 夫

秋ふ秋の暮る色 萬 里 川

彼所も人ハ 萬 里 川

庭空り 萬 里 川

竹まふや 萬 里 川

秋ふ暮るや 萬 里 川

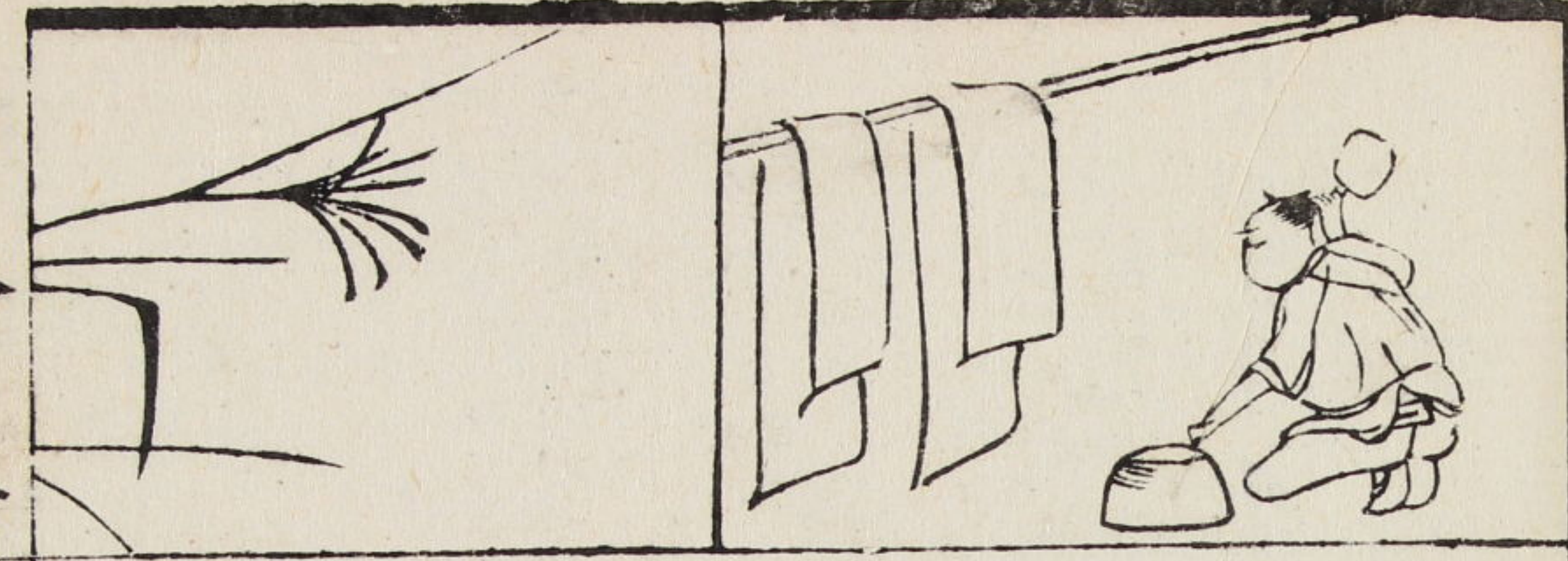
一とととと 萬 里 川

一とととと 萬 里 川

一とととと 萬 里 川

一とととと 萬 里 川

秋



庭の家の形 萬 里 川

孝孫一 萬 里 川

法子ふ 萬 里 川

十斗り 萬 里 川

昨んを 萬 里 川

つむふ 萬 里 川

お音の川 萬 里 川

旅ふ 萬 里 川

相風ふ 萬 里 川

相風ふ 萬 里 川



躬 びよりの後から野や路のみれ 麻文

躬の空やまはるくはるく山 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考

木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考 木考



麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考

麻 考 考 考 考 考 考 考 考



難かりけりぬけぬ花の華
 道ももろくまを有の華見式
 碑立しとも華いちらぬ華見式
 少はハ華中も華の白しかぬ
 障し目ふまの生とまらぬまの香
 華の香や庭ふ切れる香の感
 華の香や瓶やあろくもあまき
 華香あまきく正徳の名にけり
 か形しつる粒張人くたふ華の香
 り少なりく華作を思ひんう
 田舎町の菊録を菊の香
 咲くから月名は菊の香
 華はくくくくくく世活志進り

万
 世
 甘
 甘
 山
 川
 飯
 城
 在
 和
 屋
 織
 女
 喉
 中
 里
 角
 考



十の華あまきくくくくく
 狭い庭共くくくくくく
 華の香は深きたうくくくく
 花とまをくくくくくく
 月入まの暗白華の夜けり
 空く物く人まらぬや庭の月
 庭のくくくくくくくく
 空と花の香も深き庭の月
 花のくくくくくくくく
 空の程をくくくくくく
 吹おろは風も月の名は
 庭のくくくくくくくく
 松風も新徳もくくくく

白
 菊
 庭
 月
 空
 庭
 空
 花
 空
 吹
 庭
 松

万
 世
 甘
 甘
 山
 川
 飯
 城
 在
 和
 屋
 織
 女
 喉
 中
 里
 角
 考

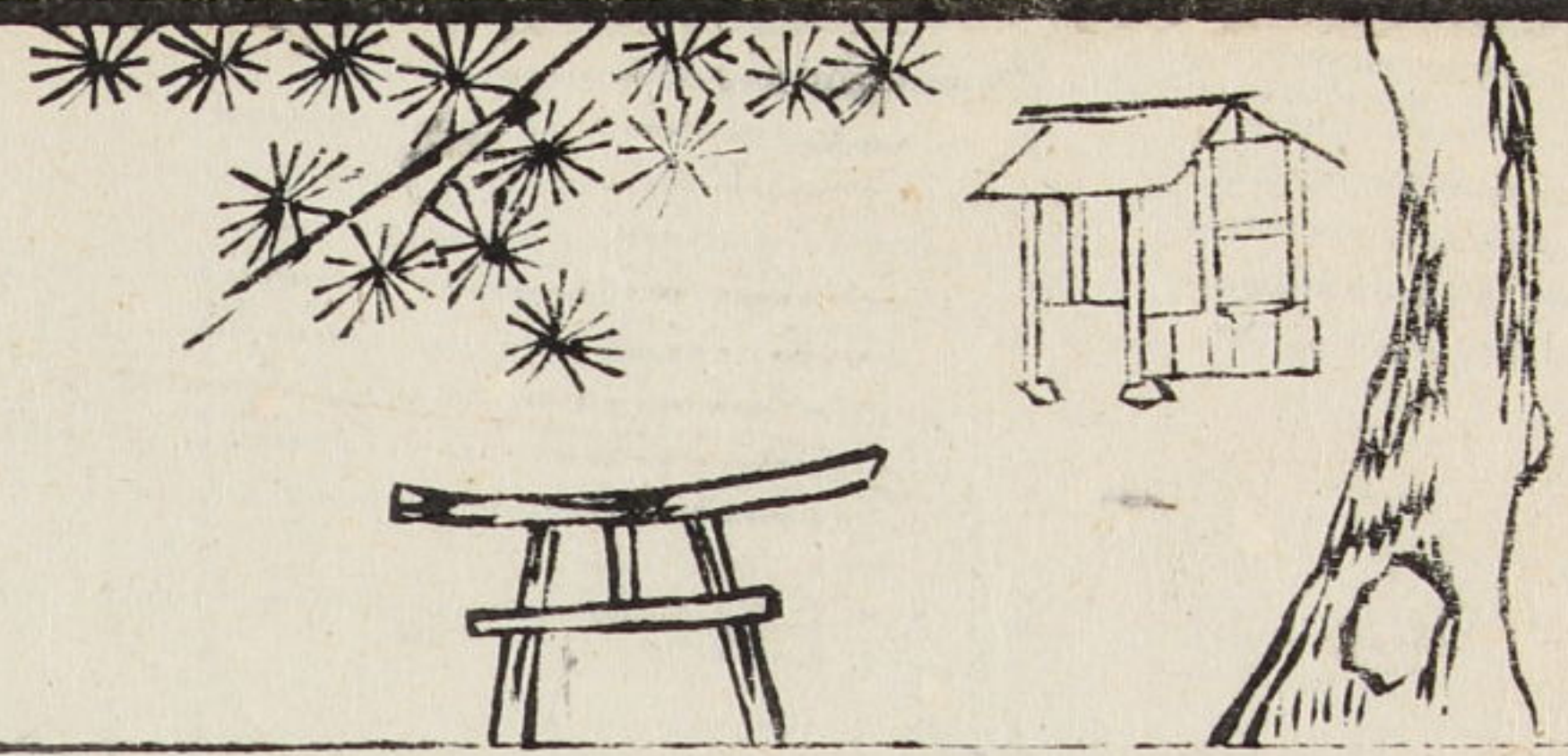
花



醒る宵の影も醒たす形酒式
 浪中のふら船したる新酒式
 音若やも揚ふ道山一の鳥
 音若やも揚ふ道山一の鳥
 多士の子ふたを信のり終務若
 穂抱く飯焚と別終乃若
 赤の茶小のるる茶の終の若
 赤抱く物の外有り終乃若
 散きたの風の小ハ似ぬも世成か
 若抱く赤四水の鳥式
 何と有り比と送若の衣有り
 一重了浮世の華一壁の若
 晴よりら海音多や若の面
 海布
 可鳥
 山雲
 客松
 不芽
 万葉
 若久長
 白光
 古坂
 角
 城
 柳
 如梅



紅葉 紅葉のよのよあ少がきおれ式
 川一垂隔といふはき紅葉式
 きけきよおきふら若るあもあ式
 若の中なる光るゆらち式
 ちちや紅葉とわりのハ石と若
 空がり一掃らさむ紅葉式
 音若もえお紅葉の空有り
 里一あく晚鐘とま紅葉式
 吹おろま紅葉の風や里の終
 里元の音とゆるる若ち式
 若紅葉のから若 翻きあり
 うきいらいましくは若紅葉式
 若の若るまやハ唯若を山の梓
 十角
 松友
 壯山
 一貞
 物底
 岱白
 音新
 上野里
 樵野
 玉鳥
 若新
 井煙
 万若



神旅

からてきしや 早もや神の旅 松林

神宿

留宿の門小巻きたる社 松林 宿

宿屋の門小巻きたる社 松林 宿

神の宿舎から早もや 松林 宿

神の宿舎から早もや 松林 宿

神の宿舎から早もや 松林 宿

神の宿舎から早もや 松林 宿

神の宿舎から早もや 松林 宿

神の宿舎から早もや 松林 宿

達磨

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

達磨の宿舎から早もや 松林 宿

十

〇三十三



燈のり

沙岸の孤り何と夜啼日く

梅園

時をよむたふりもる 初りりり

梅影

月如日

たまに夕照もあききては花先

津水

夜如日

降雪の足ゆる方夜は好むに

橋茶

時をより晴りり月の華ふり

四友

初も一初雪ふりたる冬の日

石

雪のふり家の街の伸きぬ

百竹

初雪

降るちも空をまら川をのり

大木

初雪

初雪の酒くあたまを冬の日

佳子

初雪のたふり初雪の冬の日

双鳥

初雪やゆりゆりの満ち

真室

入れたらん初雪とさたたりぬ

松

初雪

初雪やゆりゆりの満ち

松

初雪やゆりゆりの満ち

松

初雪やゆりゆりの満ち

松

初



霜柱	素風	草	霜
霜柱の御かきく程申も	素風や海山ふ来りそ	草もぢく香もぢく	霜もぢく香もぢく
霜柱の御かきく程申も	素風や海山ふ来りそ	草もぢく香もぢく	霜もぢく香もぢく
霜柱の御かきく程申も	素風や海山ふ来りそ	草もぢく香もぢく	霜もぢく香もぢく



冬川	冬田	冬山
冬川の氷は	冬田の雪は	冬山の月
冬川の氷は	冬田の雪は	冬山の月
冬川の氷は	冬田の雪は	冬山の月



油花

山菜花や葉の吹風の空より暮る 浦猪
 山菜花や畑ふ菊りたる家の跡 曉水
 山菜花のちよふ余の空を 教訓
 何の如と官よさる事 来山
 山菜花をよるや畑の畑の空 春川
 山菜花をよるや畑の畑の空 秋
 山菜花をよるや畑の畑の空 物望
 一掃ふ山菜花をよるや畑の畑の空 暮風
 山菜花をよるや畑の畑の空 高心
 山菜花をよるや畑の畑の空 一髪
 山菜花をよるや畑の畑の空 遠水
 山菜花をよるや畑の畑の空 宿夜
 世と能て見るともよせん世の世 三村人

枇杷

竹

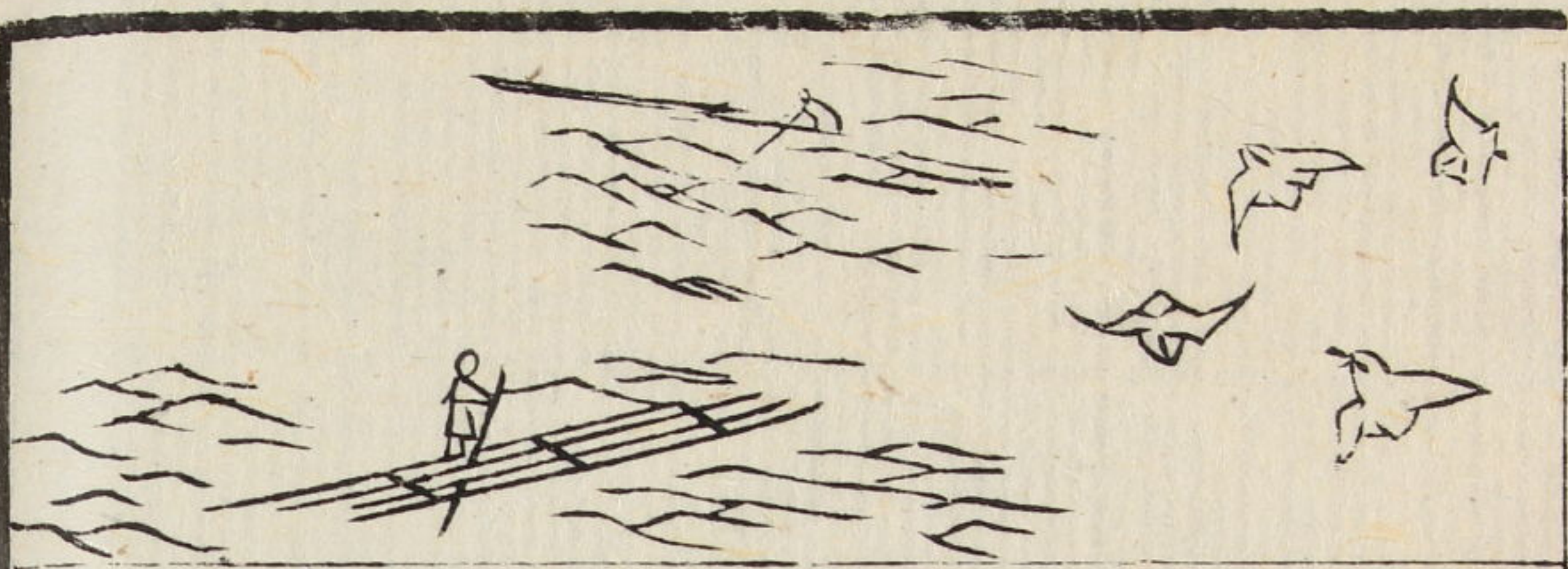
ハツ子

不露花

不露花

不露花

山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 浦猪
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 曉水
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 教訓
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 来山
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 春川
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 秋
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 物望
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 暮風
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 高心
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 一髪
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 遠水
 山菜花をよるや畑の畑の空より暮る 宿夜
 世と能て見るともよせん世の世 三村人



意 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

孝子啼 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

鯨 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

生海流 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲

水多 冬きよもあきまの けしき 白ふ 由 雲





若月 若月もあはれしものへ松葉式 梅空
 若月也延敷程のこまら 知月
 若月やまやまのさき野のそ 於水
 昇るりの何れもなきまふふ 一 漆
 赤國の橋の冬玉の日にしれ 吟 如
 花鳥の縁の結のたてまふふ 式 因 越
 中玉梅 雪の北西のあふれまふ 玉 梅 乙 妙
 雪よりたけのふらまをまふ梅 冬 十
 冬玉のあはれは梅 而 道 仁
 雪より氷の月の子遊まき亮 確 若
 發音 發音也社から雪ふ雪まき 巨 之
 六のふらまのまふまふのこまら 心 源 堂



雪見 兄ふおせいの兄らるる雪のあはれ 頃 州
 雪見のこまらまふ雪見 式 可 三
 兄の何れぬ時と雪見 式 小 舟
 地まきまの袖から雪見 式 大 公
 雪見のこまら雪のあはれ 吟 高
 雪見のこまら雪のあはれ 一 朔
 雪見のこまら雪のあはれ 式 水
 雪見のこまら雪のあはれ 可 樽
 雪見のこまら雪のあはれ 式 外 堂
 雪見のこまら雪のあはれ 吟 高
 雪見のこまら雪のあはれ 式 波



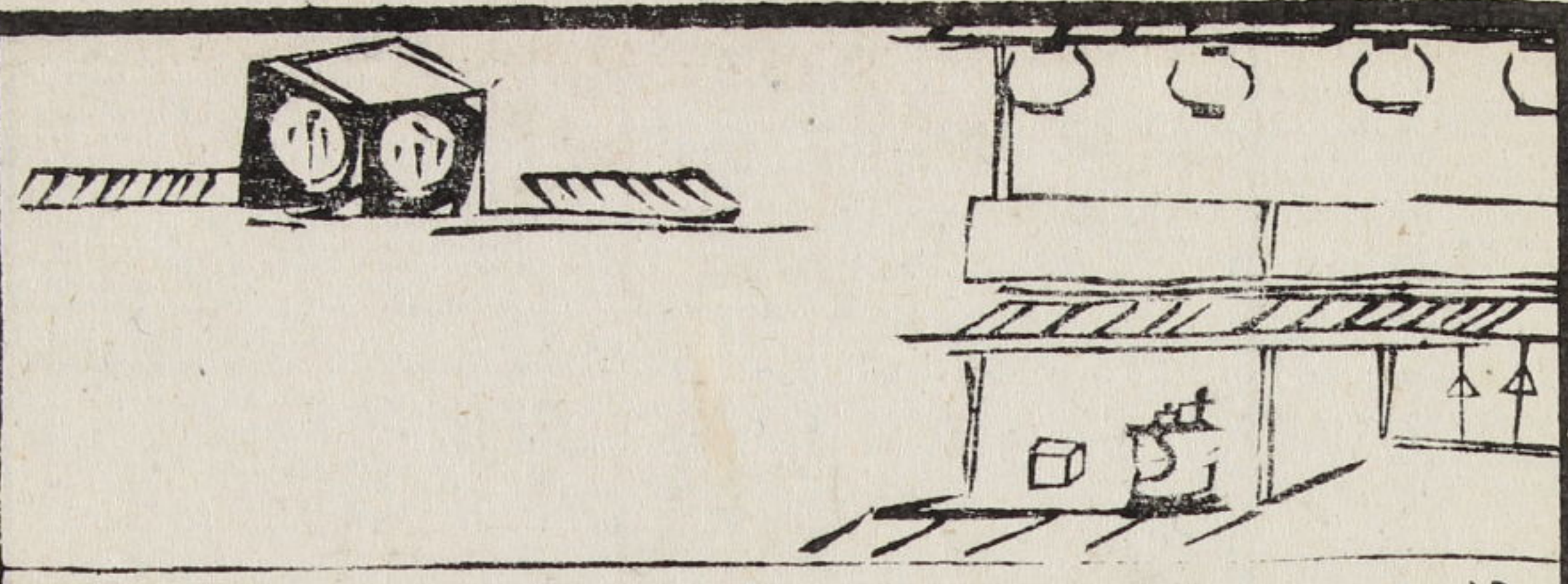
吹雪	積雪	紅雪	寒の灯のあけ付り雪の音	梅
海山の鳥啼きあけし	冥のたふ粒のちかきや積る雪	灯ともせぬ寂る陣や粒乃雪	村らつるもぬく雪ふきふり	梅
月夜も暗きや積る雪	浪音のあつむく雪のつらき	はれくと赤き雪と夜ゆ雪	空鶴や松も枝ごとけき	雪
はつくと積る雪のつらき	空鶴や松も枝ごとけき	雪のたふ粒のちかきや積る雪	海山の鳥啼きあけし	鴈
人はもぬらぬあきや板手寄	浪音のあつむく雪のつらき	はれくと赤き雪と夜ゆ雪	月夜も暗きや積る雪	雪
吹雪あき定面々の瑞雪	空鶴や松も枝ごとけき	灯ともせぬ寂る陣や粒乃雪	海山の鳥啼きあけし	雪
一雪ふゆらうよる吹雪	浪音のあつむく雪のつらき	はれくと赤き雪と夜ゆ雪	月夜も暗きや積る雪	雪



枯草	枯葉	枯葉	枯葉	枯葉	枯草
枯草のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯草のあきや積る雪
枯草のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯草のあきや積る雪
枯草のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯草のあきや積る雪
枯草のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯草のあきや積る雪
枯草のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯草のあきや積る雪
枯草のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯草のあきや積る雪
枯草のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯草のあきや積る雪
枯草のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯草のあきや積る雪
枯草のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯葉のあきや積る雪	枯草のあきや積る雪



紅糸散	勝	炭竈	炭竈
つまの日の約執るやうに紅糸 色をよきまてあつたまら	勝のまふいふらるる炭竈 勝のまふいふらるる炭竈	炭竈のまふいふらるる炭竈 炭竈のまふいふらるる炭竈	炭竈のまふいふらるる炭竈 炭竈のまふいふらるる炭竈
市	湖	橋	山
老	堂	流	引
大	堂	山	引



新忌	白夕世	初来	神抑	大砂深	報恩深
修忌のちらぬあまの心 修忌のちらぬあまの心	白夕世のあまの心 白夕世のあまの心	初来のあまの心 初来のあまの心	神抑のあまの心 神抑のあまの心	大砂深のあまの心 大砂深のあまの心	報恩深のあまの心 報恩深のあまの心
彫	込	一	来	心	心
堂	洞	夫	夫	夫	夫
堂	洞	夫	夫	夫	夫



者

村端ふ秋家の夕々を以て涼風 葉静
 山さけらふ空見ふ妙ふ所まを 翁
 恋くといひく甲くや空のつ 去来
 秋空と思ひて種一笠のこ 尺角
 門の意句と舞のの姿 一の取 岩空
 人我とわいやいと見ん空の笠 遊暮
 空風と夢の夜の旅 採分 蜀曰
 空夢を又移らさき入 日 天 桃台
 袖の空をくまきく甲く戸口 天 其翼
 大雪と穿しふまきき 雀尾分 水弁
 狂瀟と空くく岩の 龍走分 雲暮
 空の力の耐くくくや山の 家 種好
 情空のいせふ空けき 彼吟分 沫分

浮林

紅の灯の丘へくくぬ浮林 一山
 著る日も澄みぬくや浮林 千光
 見らるるも不絶不たりぬ浮林 主忌
 旅の主人よ日せまや 雲 幽分
 秋の光のくやうまきの 刻るたの 椽 云
 居あつちせ情移入ぬ 雲 月
 花あも情あも柳の 雲 桃 雲
 鴨春のほめく 櫻の 雲 木 松
 高麗不鴨もぬらぬ 雲 天 松
 陽の野の 雲 木 松

考

子
 山の均や月の入のくくく 松 木
 かつ子程あつた 雲 木 松
 悠る死を看見えたり 波 吟 木 松

鳴

子
 山の均や月の入のくくく 松 木
 かつ子程あつた 雲 木 松
 悠る死を看見えたり 波 吟 木 松

子

悠る死を看見えたり 波 吟 木 松



五

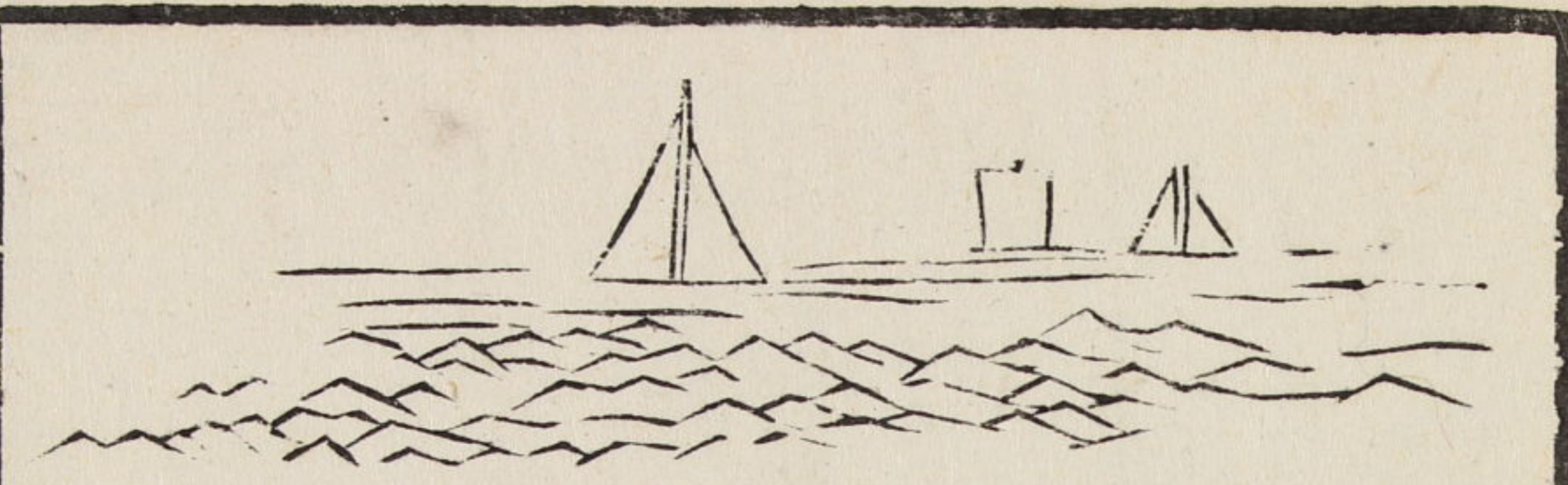


雪

雪 花とびく 申ひく 里の 男は 田 一 暮
 雪 車引く 通りぬ 舟は 舟 岸は 嵐 高
 松吹ふ 山は 心よき 心よき 心よき 去 身
 川 城の とも とも とも とも とも 毛 純
 の かな 傘は なく なく なく なく なく 号 戒
 静さく 静さく 静さく 静さく 静さく 静 静 仙
 梅の 葉は 付着 妙なり 妙なり 妙なり 斗 丈
 雲ふ 手と 手と 手と 手と 手と 手 手 手
 百と 百と 百と 百と 百と 百 百 百
 つら つか つか や つか つか の 括 笠 舟 月
 つら つか つか つか つか つか 括 笠 舟 月

雲

雲



水

水 柱
 舟の 尾の上 舟の上 舟の上 舟の上 舟 耕
 舟の 葉は 舟の 舟の 舟の 舟の 舟 舟 舟
 ひる かな 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟 舟 舟
 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲
 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲
 一粒 一粒 一粒 一粒 一粒 一粒 一粒 一粒 一粒 一粒 一粒 一粒
 降 降 降 降 降 降 降 降 降 降 降 降
 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
 帆の 帆の 帆の 帆の 帆の 帆の 帆の 帆の 帆の 帆の 帆の
 月の 月の 月の 月の 月の 月の 月の 月の 月の 月の 月の 月の
 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
 那 那 那 那 那 那 那 那 那 那 那 那



月

暇

生

鮎

月 色青丸年小澄たり月さ甲る 婁丘
 表影をさるるさへ清一月さ甲る 昇月
 時日く夜叫きや鐘さ甲る 一化
 夕影やまを清き山ぬくぬき 和婁
 不果く夜の明もま布ぬくぬき 山散
 暇色影出る月さ甲る 鶴新
 もま影斗り元さ甲るぬくぬき 冬日
 空若き風小若何る影たり 梅落
 生若き 其々の心乃の小さ甲る 耕賦
 人の只見ま若る影たり 文友
 鮎人の名もさるる影たり 糸旌
 酒とくさるる影たり 鮎つき 大勝

鮎

鷹



納

鮎さつる影や嵐山向く居る 白丸
 鮎影や若る影さつる影たり 春月
 山とみま鷹ひきま甲る影たり 至圓
 蟬燭小鷹の眼の光りたり 木尊
 鷹の目小遠山招りたり 桂林
 影の影さつる影たり 香作
 鷹啼や風小影たり 磯の岩 月う
 川端小遠き影たり 鷹の影 佳子
 山影の地さつる影たり 鷹世 三教権
 鷹影 鷹影 鷹影 鷹影 西遊
 影を更け空小影たり 影在 良斗
 影の清き影たり 影在 漸生
 影の清き影たり 影在 中政

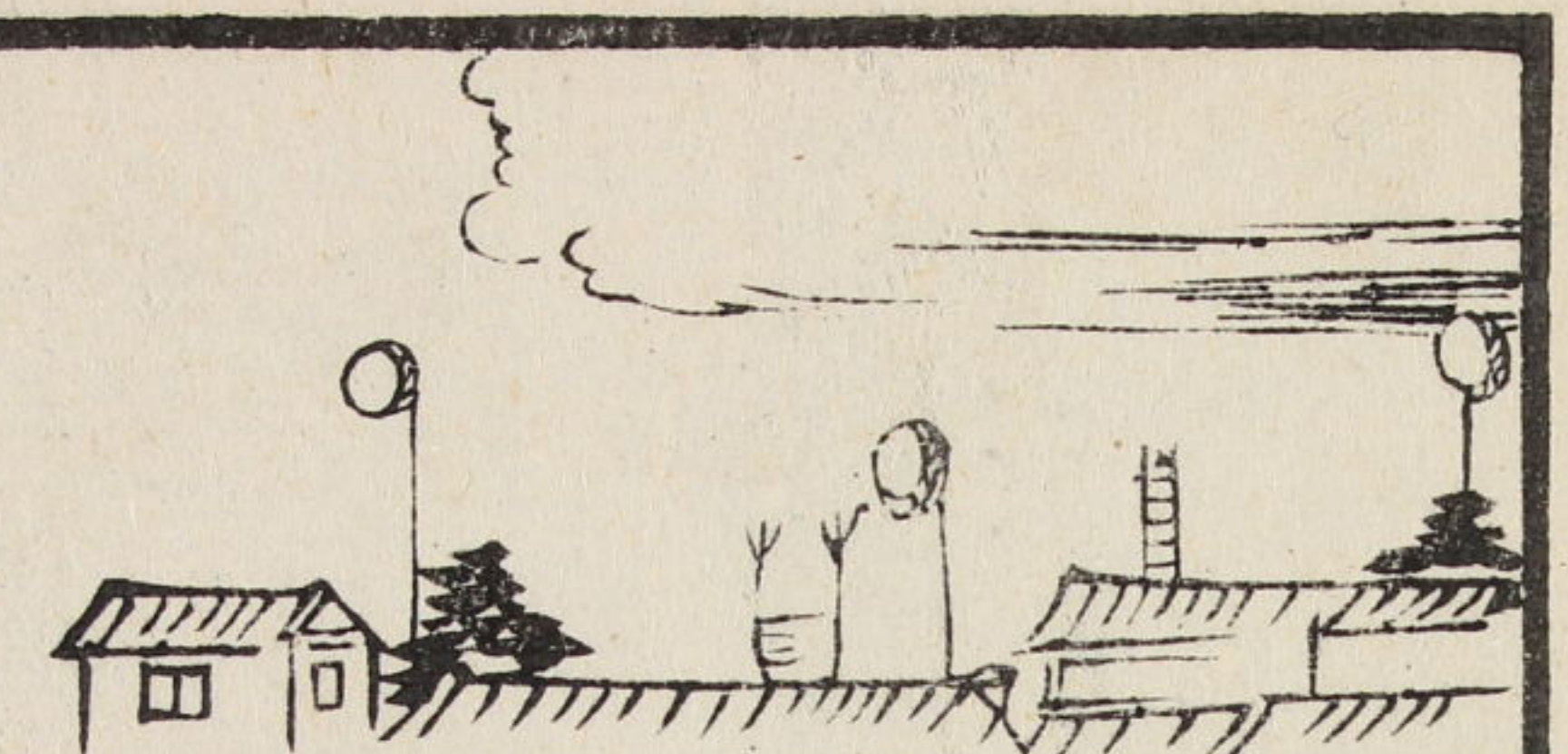


其信

生んて殺まらばいふふり候
 八重葎のゆゑらぬれぬれり候
 人の心成箱もねえや茶候
 以平ハハ名取人なり候
 留方の首と華らしや葉候
 志ハハ酒ふりたり茶候
 何ふは阿走の市人なり候
 陽事なり阿走の街のうらつかり
 世の中ハ狗ころ上の阿走
 町中の阿走ふふり候
 ぬらぬや阿走の市の人なり候
 荒る程阿走を阿走のり候
 阿走の程阿走のり候

左、就
 市、丈
 種、遊
 梅、仙
 西、宮
 若
 同
 ぬ、り
 乙、由
 和、芸
 士、芸
 千、夜

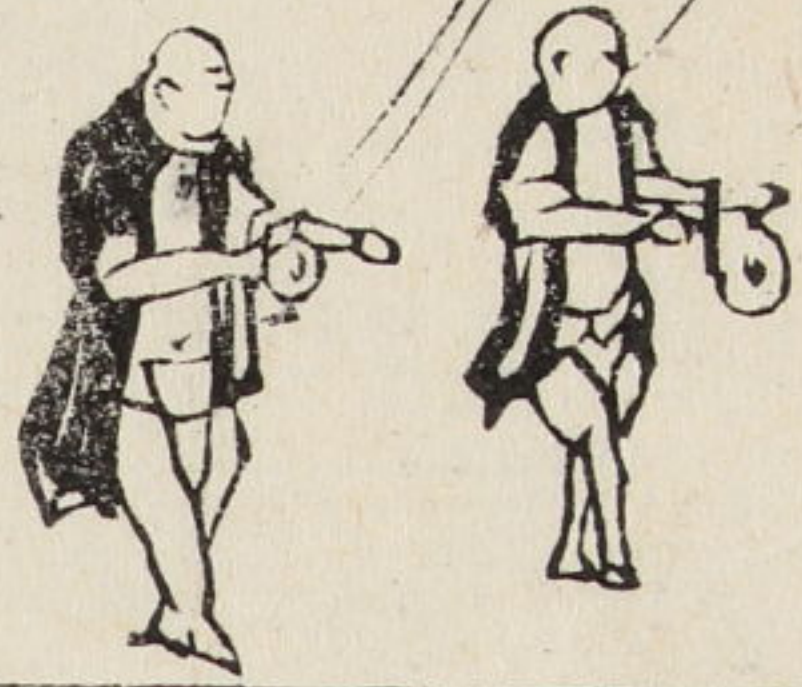
阿走



猫

猫ハ本盤の豆齋の如く音
 猫ハやさしうふふ猫の音
 延る日を心ふり候
 猫ハハ新りたり候
 限り何る生きたる候
 猫とらふもの物ひたり候
 遠山や雪候まら候
 一ゆふみり候
 春の竹ハ別のやふなり候
 梅をたそふ候
 居さくまおの田つら候
 破落ぬれ色にや候

一、音
 子、林
 兵、羊
 凍、雪
 漸、雪
 勝、と
 ぬ、亦
 葉、山
 木、雪
 文、之
 為、雪
 夜、雪



勢一羽田小居疎りて其の白
 日走き啼ゆ菫の山多や雪乃白
 隙と鳥一歌の吟やや雪の白
 松山多や雪の甚るや雪乃白
 雪乃や人目ふらげ遠歩行
 雪乃や帆をしら雪き溪口
 雪乃や雪の波ふたや雪念仏
 雪の三味珍多紅雪念仏
 雪くまも雪り雪り雪り雪念仏
 雪り雪り雪り雪り雪念仏
 報謝雪り雪り雪り雪念仏

性 柳 一 葉 白 雪 月 知 月 其 角 石 月 珠 玉 風 走



雪月 雪月や雪を初ふふ天の雪
 辻裏の鳥小沙走の月夜
 月夜の上浅き雪り雪り雪
 雪月や雪の上れ初ふ天の雪
 雪月や雪の上れ初ふ天の雪
 心雪雪すつと雪 乃 梅
 冬の梅の初ら雪り雪り雪
 咲き雪り雪り雪り雪り雪
 咲き雪り雪り雪り雪り雪
 梅雪雪雪の雪り雪り雪り雪
 梅雪雪雪の雪り雪り雪り雪
 中然雪の雪り雪り雪

深 入 折 入 雪 丸 庭 園 船 村 梅 山 梅 山 伯 雪 立 雪

明治拾三年八月出版

白雲庵



和漢洋

書藉

編輯者東京府平民足利徹
瑞宿所淺草區松清町四番
地出版人東京府平民木村
文三郎日本橋區馬喰町三
目一番發行人東京府平民
濱島精三郎日本橋區馬
喰街式丁目十一番地

拙 花

